

近畿学校保健学会通信

NO. 29

昭和 51 年 1 月 20 日

第 23 回近畿学校保健学会事務局

京都市伏見区深草藤森町 1 (〒 612)

京都教育大学体育学科事務室内

TEL 075-641-9281

振替口座 京都 25547

第 23 回 近畿学校保健学会の開催にあたって

第 23 回近畿学校保健学会々長 山岡 誠 一

昨夏、和歌山での学校保健学会の席で、第 23 回の学会が京都で開催することに決り、はからずも私がその会長としての世話役をおおせつかって以来、あのようにしたい、このようにしたいと思案しているうちに半年がすぎました。郵便料金の値上げ案の参議員通過を耳にして急いで幹事の皆様のお集りを願ひ、よきアドバイスを得てようやく学会の開催要項を決定いたしました。

近畿学校保健学会も発足の声があがってからはや四半世紀、学校保健関係の諸先輩の情熱によって発展を続けて参りました。しかし、過去に幾度も論議されながら未解決の問題を抱えていることも事実であります。その一つに会員が固定していないことが挙げられます。学会は約 100 余名の評議員の先生方によって支えられていますが、固定した会員は武田前会長から受け継いだ 40 余名（うち約半数が評議員）であって、学会に参加された多くの当日会員で活況を呈するのが現状であります。参会者の多寡はもちろん準備したプログラムの是非によりますが、世話係としては会場をどのくらいの規模にすればよいか、印刷物その他をどれ程用意するか、また案内状の発送先は……等々、予算との関係もあって悩みの種となっています。

次に「学校保健（会）」と「学校保健学（会）」の関係であります。前者は学校保健に関する教育の現場での実践活動であり、後者は学校保健をはくくみ育てる学問であって、学校保健学会は学術陶冶の場でなければなりません。教育の現場で活躍される諸先生方と大学を中心とする研究者のセクショナリズムが根に潜み、ときに頭をもたげて参ります。私はこの方面の専門家ではありませんが、理論や科学的根拠のない実践は効果が少なく、また現場を無視した机上の空論も意味がないと信じています。かつて、「日本の体育学は輝かしい華を咲かせているが体育の現実には凋落している」と評した人がいます。学校教育の基盤であり培地である児童生徒の健康の増進は、学校保健学と学校保健活動が隔合することによって成果が得られるものと思います。

第 23 回近畿学校保健学会は、教育の場で日夜苦心を重ねておられる学校医、学校歯科医、学校薬剤師の方々と、学校保健主事、養護教諭その他の関係諸先生方の、実践を通しての身近な研究成果の報告を承るとともに、医学、教育学、心理学、体育学等広い範囲から学校保健に関する科学的な研究業績を理解しやすく披露していただき、両者が互に表となり、また裏となって語り合い、論じ合い、そして理論の貧困に悩む実践者と、研究素材の不足に悩む研究者とが交流を盛にする場となることを願っています。これがまた近畿学校保健学会の固定した会員の増加に繋がるものと考えています。

今回の学会の特別講演や、シンポジウムのテーマとして「健康と体力の問題」をとりあげたのも、単に私が発育や体力に興味を持っているからではなく、学校教育のなかでの身近な健康や体力づくりの諸問題を科学的に把握し、明日の教育の場に活用していただくとともに、実践活動によって得られた成果を学問的に裏づけ、かつ現場での疑問を究明し隘路を解決する絆としていただきたいためです。

学校保健関係の皆様、堅苦しく考えないで発表に、また討論に振って参加され、学会を盛り上げていただくことを切に望んでおります。

第22回 近畿学校保健学会を終えて

和歌山県立医科大学 教授 武田 真太郎

昨夏、和歌山で第22回の本学会を開催いたしました折には、同じ近畿圏にありながら京阪神地区に比べてひどく交通の便が悪く、しかも夜来の雨が残る悪天候にもかかわらず、多数の会員がお集まり下さいまして、終始熱心な討論が展開されましたことを、お世話させていただきました私ども一同心から喜んでおります。

午後のシンポジウムは、企画の段階では討議時間が充分ある予定でしたが、実際に司会を進めてみますと、残された討議時間が大変短かく、参加された会員の皆さんの御期待にそえなかったのが、今もって心残りです。しかしながら、心の健康については、教育にたずさわる以上は、いつも念頭になければならぬ問題です。当日提供された話題は、少なくとも現在の学校保健に対する1つの問題提起としての役割は果たしたものと考えております。そこで、編集作業が大変遅れてしまったのですが、このシンポジウムの記録を日本学校保健学会編集の「学校保健研究」に近々掲載しますので、ぜひお読みいただき、もう一度精神の健康についてお考えいただけるようになれば幸甚です。

また、総会で全員一致で認められました、学会の組織ならびに運営の強化策を検討するための「近畿学校保健学会組織検討特別委員会」は、まだ結成の準備段階にありまして、正式に発足しておりませんが、今年の第1回幹事会を期して発足し、積極的な検討が開始されるものと思います。学校保健は学際的な領域であるだけに、その組織のあり方については、過去22年間、いつも問題にされながら解決策のたされていなくて課題ですので、この機会に衆知を集めてじっくり腰を据え、恒久的な解決策が提案できるところまで検討していただきたいと考えております。

今年は、京都教育大学の山岡誠一教授を会長に、学校保健に伝統のある京都で、第23回近畿学校保健学会が開催されようとしております。使い古された言葉ではありますが、古き革袋に新しい酒を入れ有意義な学会になりますことと存じ、心から期待しております。

では、また京都でお会いしましょう！

第22回 近畿学校保健学会決算報告書

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費 一般会員 1000円×182人 評議員 1500円× 45人	249,500 円	印 刷 費 (学会通信 No. 27, 28) (抄録集, コピー, 他)	403,000 円
援 助 金	395,000	謝 金 (講師5人, アルバイト)	170,000
補 助 金 和歌山県教委 150,000円 和歌山市教委 75,000円	225,000	会 議 費 (幹事会, 評議員会)	100,650
		会 場 費 (会場借上, 装飾, 等)	55,900
		通 信 費 (通信, 連絡, 他)	88,155
		雑 費 (文具, 名札 他)	51,795
合 計	869,500	合 計	869,500

第23回 近畿学校保健学会開催要項

1. 会 長 山 岡 誠 一 (京都教育大学教授)
2. 事 務 局 京都教育大学体育学科事務室内
第23回近畿学校保健学会事務局 (代表 米田幸雄教授)
〒612 京都市伏見区深草藤森町1
TEL 075-641-9281 振替口座 京都25547
3. 開催期日 昭和51年6月29日 (火)
4. 会 場 京都教育文化センター
京都市左京区聖護院川原町4-13 (京大病院正門前)
5. 内 容 評議委員会総会
一 般 講 演 (2会場準備)
特 別 講 演
健康・体力診断の諸問題 (仮題)
シンポジウム
学校における健康と体力づくり
6. 学会参加申込み
学校保健に関心のある方は誰でも参加できます。学会当日会場で受付いたしますが、
予じめ会費 1,000円 (評議員は1500円) を前納して申込まれた方には学会プログラム
の送付等の連絡をいたします。
7. 一般演題申込み
一般口演は2会場用意してありますので、振って応募して下さい。
発表希望者は別紙申込み用紙に必要事項を記入の上、昭和51年4月30日 (金) 必
着で学会事務局まで申込んで下さい。学会講演集用のオフセット印刷原稿は、昭和51
年5月31日 (月) までに提出して下さい。原稿用紙は演題申込み者に折返しお送り
いたします。

わたくしにとっての学校保健学会

— 学校保健をすすめる立場から —

西宮市教育委員会学校保健課 大 西 道 子

◇ 第23回近畿学校保健学会が京都でひらかれる。私にとっては昨年ひきつづいた会であるが、この一年の教育現場でのあゆみの中から、今一度「私にとっての学校保健学会とは何か」をとらえなおしてみたい。

① 学校保健の理論構築の場であってほしい。

今、社会で教育の危機をさげふ声が大である。しかし、その危機にどう対処するかを論述したものは少ない。学校保健も子供の人間性尊重に立脚して、ひとりひとりのいのちをつちかういとなみであると考えるが、そのいとなみの姿のあり方についてはあきらかにされていない。未来社会の形成者としての子どもとは一体どのような子どもなのだろうか。また、どのような子どもを育てようとしているのか、具体的な人間像を学校保健の視点から描き出していくことができる場であってほしい。

② 教育の理論との結びつきをはかる場であってほしい。

①で述べたように、あきらかにされた具体的人間像を、どのような手だてで実現していけばよいかを考えられる場であってほしい。ところで、育てた人間像を想起しながら現今の子どもたちをみつめると、多くの問題が浮び上ってくる。しかも、これらの問題はさまざまな要因が複雑にからみ合っていることが多いために、一般論や過去の概念ではもはや説明することはできない。多角的分析やいろいろな立場の人たちが有機的にかかわり合っていくことが必要になってきている。そのような意味で現場のもつニードと教育の論理を結合させることのできる場であってほしいと思う。

③ 具体的実践への展開を喚起する場であってほしい。

これまで学校の現場で具体的な実践活動をすすめながら、「果してこれでいいのだろうか」という迷いを持ちつづけてきた。それは上の①と②で述べたような理論構築がなされていなかったからであろう。学会のさまざまな研究発表の中から問題の本質や方則をみつけ出すことにより、問題解決の糸口にしていきたいと思う。

◇ 以上、学会のあり方について思いつくままに私見を述べさせていただいた。従来までの研修会では一面的な把握のみに終始していた感もあった。しかし、複雑な現在社会情勢の中に生きる子どもたちにかかわっていく時、学校保健研究もそれに対応できるような研究会であってほしいと思う。

第23回 近畿学校保健学会幹事名簿

(昭和51年1月17日現在)

合田 梅野(枚方陸蛇小)	有本 武二(京・府・市学校歯医会)	安藤 格(大阪教育大)
井上 修一(和・県教委保体課)	井辺 八郎(和・県保健主事会)	池田 英三(京・府医師会)
泉沢馨一郎(京・市・小安全教育研)	今井 英雄(大阪教育大)	今西 昭雄(奈・県教委保体課)
今村 要道(京・市保健主事会)	卯滝喜代次(京・府学校保健連合会)	宇野菊三郎(大・府・市学校保健会)
植村 良雄(滋・県医師会)	梅本 哲夫(宇・久・城・保健委員会)	浦久保 繁(奈・県教委保体課)
大原 純吉(京都産業大)	大山 良徳(京都大・体指センター)	奥 正規(京・市学校医会)
貝川 一男(京・市学校薬師会)	景山 幸雄(乙訓学校保健委員会)	上林 久雄(大阪教育大)
木村 静雄(立命館大)	北岡 秀夫(京・市学校歯医会)	北村 李軒(京大・保管センター)
桐山 和夫(京・市・中・安全教育研)	黒田 健雄(和・県学校保健連合会)	小西 経和(京・市・中・安全教育研)
小西 博喜(京都工芸繊維大)	後藤 英二(大阪教育大)	佐藤 良男(奈・県教委保体課)
佐守 信男(神戸大・教育)	沢田 芳三(京・市小学校長会)	白倉 一夫(滋・県学校保健会)
瀬戸 進(大谷大学)	高島 雅行(京・市学校医会)	高田 恬(滋・県歯医会)
高寄 昭(京・市学校歯医会)	竹下 克彦(京・府・高保健研究協)	武田真太郎(和・県立医大・衛生)
立川 明(京・市教委保体課)	橘 重美(天理大・体育)	立石 光代(兵・県教委保体課)
谷口 正(滋・県医師会学校医部)	出口 庄佑(奈良女子大)	戸田 嘉秋(神戸大・衛生)
中牟田正幸(奈良教育大)	中村 久子(京・府養護教員研)	中本 尊子(京・市養護教育研)
永井豊太郎(天理大・体育)	永田 久紀(京・府立医大・衛生)	西村 卓三(京・市学校薬師会)
根岸 文子(和・県養護教員研)	橋井 盛夫(京・市小保健教育研)	浜田 清(京・府教委保体課)
林 正(滋賀大・教育)	武藤 勇哉(京・市学校医会)	福田 潤(京・市学校医会)
福本 絹子(京・府教委保体課)	藤井 正雄(京・府市学校薬師会)	堀井 剛(京・府教委保体課)
細部新一郎(大・市学校薬師会)	榊岡 義明(京・府教委保体課)	松井 健三(京・府市学校歯医会)
松岡 勇二(和歌山大・教育)	円山 一郎(大阪教育大)	三宅 義信(京都女子大)
南 哲(神戸大・教育)	宮田 英子(京都教育大)	村高 懐(京・府学校保健連合会)
本原貫一郎(滋・県医師会)	守田 良一(京・市教委保体課)	森本 稔(天理大・体育)
八木 保(京都大・教養)	安見 幸八(京・府学校保健連合会)	山下 正(京・府学校保健主事会)
山田 一(滋賀大・教育)	吉岡 文雄(京都女子大)	米田 幸雄(京都教育大)

第 23 回近畿学校保健学会演題申込み用紙

(裏面必読)

演 題 名		スライド使用		有	無
発表者氏名, 所属 (連名で発表の場合は演者に○印)					
連 絡 先	〒	TEL	(	)	
住 所					
氏 名					
発表要旨 (100 字ぐらいに)					

申込用紙不足の場合は, これと同じ様式のものをういて下さい。

----- き り と り 線 -----

第 23 回近畿学校保健学会参加申込み用紙

(裏面必読)

氏 名 (ふりがな)	所 属 (具体的に)	府県名
連 絡 先	〒	TEL ()
住 所		
第 23 回 近 畿 学 校 保 健 学 会 に イ. 参加します ロ. 参加できないが講演集等を送って下さい 今後も引続き会員として入会を イ. 希望します ロ. 未 定 ハ. 否		

1人1枚 足りない場合は同様式のものをういて下さい。

1. 口演内容は学校保健の立場に立脚し、具体的な資料にもとづいた研究発表を希望します。
2. 演者は近畿地区に在住または勤務する方に限ります。連名で発表の共同研究者は近畿地区外の方でもかまいません。発表者は原則として会費を前納して下さい。
3. 演題申込みはこの用紙（または同様式）に必要事項を記入し、昭和51年4月30日（必着）までに学会事務局あてお送り下さい。折返し講演集作成用の所定の原稿用紙をお送りします。5月31日までに講演内容の抄録（表題、図、表を含めて約1400字）を黒インク書きで提出して下さい。オフセット印刷にいたします。
4. 発表時間は申込み演題数によって決定いたしますが、討論を含めて1題10～12分間を予定しています。

----- き り と り 線 -----

1. 学会は学校保健に関心のある方は誰でも参加できます。
2. 学会当日、会場入口で会員の受付をいたしますが、予じめ会費1000円（評議員は1500円）前納の方には学会プログラムをお送りいたします。また当日参加できない方には講演集をお届けいたします。
3. 近畿学校保健学会は近畿地区6府県の輪番で毎年1回開催されます。会員として入会（年会費1000円）されると、引続き学会通信や講演集をお送りいたします。
4. 申込みはこの用紙に必要事項を記入の上、現金1000円を添えて持参または郵送（現金封入郵便）されるか、振替郵便の通信欄に必要事項を記入して送金下さい。領収証は勝手ながら次回の連絡の際に同封する予定です。

近畿学校保健学会々則

第1章 名称及び事務所

第1条 本会は近畿学校保健学会と称する。

第2条 本会の事務所は学会々長のもとにおく。

第2章 目的及び事業

第3条 本会は学校保健に関する研究を行い、健康で文化的な学校生活に寄与することを目的とする。

第4条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 総会及び研究会の開催
2. 会誌及び図書の刊行
3. 学校保健に関する調査研究
4. 講習会の開催
5. その他本会の目的達成に必要な事業

第3章 構成及び会員

第5条 本会は近畿地方に在住する学校保健関係者並びに本会の趣旨に賛同するものをもって構成する。

第6条 会員をわけて次の三種とする。

通常会員 賛助会員 名誉会員

第7条 通常会員は本会の趣旨に賛同し会費を納めたものとする。

第8条 賛助会員は本会の目的を達成するために賛助の意を表し、評議員会の承認を経たものとする。

第9条 名誉会員は学校保健に関し、学識、経験に富み、また本会に功労のあったもので、評議員会で推薦されたものとする。

第10条 会員は会費を滞納し、若しくは本会の名誉をけがす行為があったときには評議員会の議決により除名することができる。

第4章 役員

第11条 本会に次の役員をおく 1.会長 1名

2.副会長 若干名 3.評議員 若干名

4.幹事 若干名

第12条 役員の任期は1ヶ年とし、評議員及び幹事は留任をさまたげない。

第13条 会長は学会開催地の会員のうちから評議

員会において選出する。副会長は会長が委嘱する。

会長は本会の会務を統括し、本会を代表する。副会長は会長を助け、会長に事故あればこれを代理する。

第14条 評議員及び幹事は会長が委嘱する。評議員は本会の運営に関する事項を評議し、幹事は会長の依頼を受けて会務を処理する。

第5章

第15条 会議は総会、評議員会及び幹事会とする。

第16条 総会は毎年1回これを開く。必要に応じ臨時総会を開催することができる。

第17条 会長は総会開催にあたって臨時に若干の総会役員をおくことができる。

第18条 評議員会は会長これを召集し、重要事項を審議する。

第19条 幹事会は会長これを召集し、その議長となり、総会、評議員会から委任された事項及び会長が必要と認めた緊急事項を処理する。

第6章 会計

第20条 本会の経費は、会費、寄附金その他の収入をもってあてる。

第21条 本会の会計年度は総会から次期総会までとする。

第22条 本会の決算は評議員会の議を経て、総会の承認を得るものとする。

雑則

第23条 本会則の変更は総会の決議によるものとする。

附則

① 会費は通常会費1000円、評議員は会費の他に500円を納めるものとする。

② 本会則は、昭和28年6月29日より施行する。

昭和33年6月13日一部改正

昭和39年5月17日一部改正

昭和49年9月6日一部改正

事務局 日 誌

- 昭. 50. 7. 10 第22回近畿学校保健学会評議員会において第23回学会開催地を京都に決定、会長に山岡誠一（京都教育大教授）が推挙される。
- 昭. 50. 8. 26 第22回学会事務局長入洛、事務引継を行なう。
- 昭. 50. 11. 22 第23回近畿学校保健学会事務局を京都教育大学体育学科事務室内に置き、有志による準備会を開催、米田幸雄（京都教育大教授）を事務局代表とする。
- 昭. 50. 12. 15 第23回近畿学校保健学会幹事78名を委嘱する。
- 昭. 51. 1. 12 京都地区幹事による幹事会を京都教育大学にて開催（出席者 25名）、学会開催の準備体制を作る。
- 昭. 51. 1. 17 幹事会を京都教育大学で開催（出席者 33名）、第23回近畿学校保健学会の開催要項を決定する。
- また武田真太郎前会長の提案により次の委員よりなる「近畿学校保健学会組織検討特別委員会」を発足させる。

上林久雄 小出陽造 佐守信男 武田真太郎 橘 重美 永井豊太郎
山岡誠一 山田 一 米田幸雄

学校保健の総合研究月刊雑誌

健康教室

定 価 1部 430円

1年分 6,750円（前金・送料共）

（内訳）普通号（定価430円 12冊）

増刊号（定価530円・年間3冊）

- ☆ 「健康教室」は学校保健の研究・調査指導・普及に役立つことを目標として編集され、現場の要求にこたえる最も実内容的な内容を持つ学校保健の総合的月刊雑誌です。
- ☆ 「健康教室」は最も歴史が古く、発行部数が最も多く、全国の保健優良学校はすべて本誌を指導資料として活用しています。
- ☆ 「健康教室」の高い水準、具体的な記事、清新な編集企画と技術は毎号すばらしい反響を生んでおります。
- ☆ 「健康教室」は諸権威によって編集が指導され、常に時宜に適したテーマがとりあげられ学校保健の進展に寄与しています。
- ☆ 「健康教室」は昭和23年に創刊され1回の休刊も合併号もなく順調に発行され、さらに1年3回特集増刊号が発行されます。

保健関係書籍多数発行しています。
図書目録申込次第お送りいたします。

東 山 書 房

〒615 京都市右京区山ノ内大町5-3
電話・075-841-9278（代表）振替口座・京部1067番